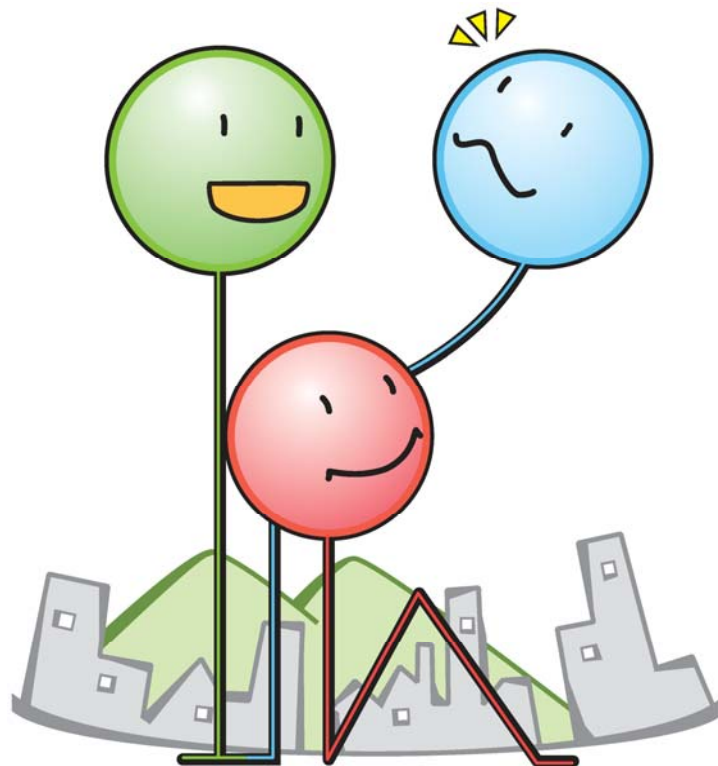


2009 年度 神戸大学

「地域に根差し人に学ぶ実践塾」

募集要項



テーマ (1) 「能登半島地震被災地・3年目の課題と地域の魅力」

日程： 8月9日(日)～8月12日(水)

「大阪における野宿と貧困の問題」

日(木)～8月23日(日)

「神戸の定住外国人の歴史と現状」

日程： 1日目：8月24・25・27日から1日選択

2日目：8月31日(月)、3日目、9月2日(水)

主催：神戸大学都市安全研究センター・学生ボランティア支援室

※この企画は文部科学省「平成20年度 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に採択された神戸大学の取組「地域に根差し人に学ぶ共生的人間力——震災の記憶の伝承と組織的体制の構築による学生活動支援——」の一環として実施されます。

1. 「地域に根差し人に学ぶ実践塾」の趣旨

神戸大学学生ボランティア支援室では、神戸大学の学生が、現在の社会の中にある問題を実地に学び、同時にその問題に対して自分たちにできることを考えるきっかけを提供するために「**地域に根差し人に学ぶ実践塾**」という現場実習を実施します。

この現場実習では、その名の通り、さまざまな社会問題が起きている現場に行き、その現場にいる人々からお話をうかがったり、一緒に共同作業をすることによって、社会的な問題について、現場で取り組む当事者の視点から理解することを目的としています。

2. 2009年度夏季実践塾の3つのテーマ

2009年度夏季の実践塾では、次の3つのテーマについて現場実習を実施します。

テーマ (1) 「能登半島地震被災地・3年目の課題と地域の魅力」

日程： 8月9日(日)～8月12日(水)

テーマ (2) 「大阪における野宿と貧困の問題」

日程： 8月20日(木)～8月23日(日)

テーマ (3) 「神戸の定住外国人の歴史と現状」

日程： 1日目：8月24・25・27日から1日選択

2日目：8月31日(月)、3日目、9月2日(水)

それぞれのテーマごとに、4日程度の現場での現場実習を実施します。また事前学習会および実施後のふりかえりの機会もあります。各テーマの実習内容については、この募集要項の4ページ以降を参照ください。

3. 実践塾の概要

◎対 象 神戸大学生

◎募集定員 募集定員は**各テーマ毎に15名**。

複数のテーマに参加することも可能です。また各テーマとも、部分参加も可能です。ただし、応募者多数の場合は全日程参加者が優先されます。

◎申込方法 巻末に綴り込んである「参加申込書」に必要事項を記入のうえ、**2009年7月31日(金)午後5時**までに、鶴甲第1キャンパス内の学生ボランティア支援室または学生センター学生相談係(藤原)まで提出して下さい。ただし定員に達し次第、**〻切**ます。また窓口提出の他、学生ボランティア支援室のWebサイト(<http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/>)から「参加申込書」がWordファイルでダウンロードできるので、それに記入の上、メール(svs@port.kobe-u.ac.jp)でお申し込みいただいてもかまいません(〻切は窓口提出と同じ)。

◎受講料 無料。ただし、**ボランティア保険代500円**(未加入者のみ)と、実習参加中の**食費**および、テーマ(2)(3)の**交通費**は自己負担となります(宿泊費は無料)。

4. 事務連絡

◎ボランティア保険への加入について

実践塾に参加する場合は、必ずボランティア保険（「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済」）に加入しなければなりません。未加入の方は「参加申込書」にその旨ご記入いただければ学生ボランティア支援室で加入手続きを行います。保険料は500円となります。保険料は実習中に引率教員に納付して下さい。

なお、学内外のボランティア団体・グループなどで既にボランティア保険に加入している場合は、新たに加入する必要はありません。所属団体などにご確認ください。

◎レポートの提出について

実践塾の参加者には、各テーマ毎にレポート（1,500字程度）を提出してもらいます。レポートの〆切および提出先は各テーマ毎に以下の通りです。

- ・テーマ（1） 9月4日（金）〆切
- ・テーマ（2）（3） 9月18日（金）〆切

レポート提出先：メール本文か添付ファイルで、svs@port.kobe-u.ac.jp まで送信。

提出されたレポートは、Webサイトなどで公表します。それにより、受講者・協力者および協力団体へのフィードバックと、将来の大学活動での活用を図ります。

◎修了証の交付

各テーマ毎に、所定の日数実習に参加し、レポートを書いた参加者には、修了証を交付します（単位の認定は行いません）。

◎報告会への参加

実践塾の各テーマ参加者数名に、実践塾の内容を報告していただく報告会の開催を予定しています（実施日時未定、参加は任意）。実習中、参加者の方にこの報告会への参加をお願いすることがありますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

5. お問い合わせ先

神戸大学学生ボランティア支援室（平日朝10時～夕方18時まで）

TEL : 078-803-6256 FAX : 078-803-6028

E-mail : svs@port.kobe-u.ac.jp URL <http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/>

テーマ1「能登半島地震被災地・3年目の課題と地域の魅力」

◎ねらい

2007年3月25日に発災した能登半島地震被災地は、今年で発災から3年目を迎え、5月には仮設住宅も解消されました。しかしながら、地域の復興と被災者の生活再建にはまだまだ課題も多くあります。

地域の復興にあたっては、そもそも、日本の地方が構造的に抱える問題が震災以前の問題として存在します。過疎高齢化の問題、地方の貧困の問題です。また、仮設住宅のコミュニティが解体した後、復興公営住宅などで入居者が孤立しないか、自立して生活を営めるかという問題もあります。

同時に、能登半島被災地には、様々な魅力と可能性があります。都市から農業をやるために帰ってくる人、豊かな海の幸、開放的でやさしい人柄、古来よりの様々な文化の蓄積などです。こうした魅力を生かしながら、3年目を迎える能登半島被災地の復興はどのように進んでいくのか、その課題は何か。それを学ぶのが今回の実習のねらいです。

◎実習について

まず能登半島の土地の魅力を知るために、都市から能登に移り、「不耕起農法」というやり方で農業に挑戦している方々と実際の農作業をしながら交流します。またその後、震災で大きな被害を受けた穴水町の街並みを、カヌーで水路から眺めて、町の復興の課題を探ります。2日目には、金沢大学の方と能登半島を回り、能登の地質と地震発生のメカニズムについて学びます。その後、震災被災者の方からお話を聞き、3日目には、地震の被害を受けた地域の方々と交流します。

◎日程

事前学習		
8/3 (月)	午後 5:00 ～7:00	神戸大学 (国際文化学部内) にて 能登半島地震に関する資料などを事前に学習します。
現場実習		
8/9 (日)	午後 1:30 午後 8:00	阪急六甲駅前、ケンタッキーフライドチキン前集合。バスで能登半島に出発。 石川県穴水町に到着。入浴後、穴水町商店街内「江尻屋」にて宿泊
8/10 (月)	午前 5:30 午前 7:00 午前 10:00～ 11:00 午後 12:00 午後 1:30～ 3:00 午後 6:00	起床、朝食後に「三井の里」に移動 「三井の里」にて農業体験実習 農業従事者との交流会、その後昼食 穴水町に移動し、江尻屋にて能登半島地震被害と復興の課題についてレクチャー 穴水町にて、水路を利用したカヌー体験 入浴後、バーベキューにて穴水町の方々と交流
8/11 (火)	午前 10:00 午後 4:30	能登スタディツアー (主催: 金沢大学) に参加 ※竜ヶ崎 (斜面崩壊) → 門前 (総持寺復旧作業) → 赤神 (海岸隆起) → 琴ヶ浜 (震源地) → ヤセの断崖 (斜面崩壊) → 富来 (活断層地形) 穴水町に戻り、江尻屋にて被災当事者のお話を聞く
8/12 (水)	午前 10:00 午後 1:00 午後 3:00 午後 10:00	穴水町にて足湯を実施 ワークショップ 石川県を出発 神戸に戻る (阪急六甲駅前、ケンタッキーフライドチキン前解散)

振り返り学習		
日程未定		神戸大学（国際文化学部内）にて実施予定（実習中に打ち合わせて実施）

◎問題の概要

2007年3月25日、午前9時41分に能登半島沖を震源とする、マグニチュード6.9の地震が能登半島を襲いました。石川県能登七尾市、輪島市、穴水町などで震度6強を記録、その他、石川県志賀町、中能登町、能登町などで震度6弱を記録しました。

住宅に対しては、**輪島市市街地**や**輪島市門前町**、**穴水町**で大きな被害が発生し、全壊686戸・半壊1740戸・一部損壊26,955戸となりました。しかしながら、家屋の倒壊による死者は奇跡的にありませんでした（死者1名は石川県輪島市で女性が倒れてきた石灯籠で頭を強打して亡くなったものです）。

応急仮設住宅は輪島市・穴水町・志賀町・七尾市などに10ヵ所334戸が建設されました（2007年4～5月）。これらの応急仮設住宅は建設から2年間が入居期限とされ、2009年5月に解消されました。2004年に発生した中越地震被災地から、仮設住宅生活の体験者がこれらの仮設住宅のいくつかを訪問するなどして、集会室を利用して入居者の孤立を防ぐことの重要性などを伝えました。また入居者の内から任命された**生活援助員**によって、仮設住宅の生活が支えられましたが、自身も被災者である生活援助員に少なからぬ負担も強いられました。

また能登半島地震被災地には、2007年11月に改正された**被災者生活再建支援法**が適用されました。改正によって、住宅再建などに対して、被災者に公的資金がより支給されやすくなりましたが、全壊・大規模半壊・一部損壊などの区分に応じて支給額が大きく異なり、被害の程度で住民意識が分断され、傷つけあうような事態も起きています。仮設住宅の住民が、近所の居酒屋でお酒を飲んでいたら「支援金で飲んでいる」とあらぬ中傷を受けたり、一部損壊の住民が大規模半壊以上の世帯に対して「あの家の被害はそんなに大したことはないのに、お金をいっぱいもらってプラズマテレビを買っていて……」などと誹謗するようなことがあります。

現在、仮設住宅は解消され、入居していた被災者は自力で住宅を再建するか、**復興住宅**に入居しています。**高齢世帯が復興住宅の中で孤立しないかどうか**が、今後の課題になります。

能登半島は、**高齢化**が進んでおり、今回の地震で大きな被害のあった輪島市門前町では、高齢化率は50%に迫ります。同時に、能登半島には豊かな**文化的な蓄積**と、**自然の恵み**があります。そうした**地域の魅力**を生かした復興をどのように進めるのかが、今後の課題となります。

【能登半島地震の被害状況（2009年1月13日18:00現在、消防庁調べ）】

都道府県名	人的被害（人）				住家被害（棟）			
	死者	行方不明者	負傷者		全壊	半壊	一部損壊	建物火災
			（重傷）	（軽症）				
新潟県			1	3			3	
富山県			1	12				
石川県	1		88	250	686	1,740	26,955	
福井県								
計	1		91	265	686	1,740	26,955	

テーマ2 「大阪における野宿と貧困の問題」

◎ねらい

面積 0.62 平方キロに約 3 万人の人々が住む町、大阪市西成区「釜ヶ崎」。東京・山谷地区、横浜・寿地区と並ぶ日雇い労働者の街、「寄せ場」の一つであり、かつ最大のものであります。高度経済成長期以来、日本の社会資本整備を支えた日雇い労働者たちは、景気減速とともに大阪万博が終わった 1970 年末以来、厳しい状況に置かれてきました。仕事にあぶれた労働者たちは野宿を強いられ、その果てに路上で死ぬ人（行旅死亡人）の数は大阪市だけで年間約 200 人にもものぼります。しかし、そういったことが正面から社会の話題にのぼることはほとんどありません。このフィールドワークでは釜ヶ崎や公園のテント村を中心に街を歩き、野宿者に集約的に現れる、日本社会の不可視化された貧困の問題について考えます。

◎実習について

野宿者がまず労働者であることを知るために、早朝の寄せ場の見学から、夜の野宿の現場まで、日雇い労働と貧困の問題を学習します。釜ヶ崎だけでなく、西成公園、大阪城公園などもフィールドワークし、日常生活に隣り合っている貧困の現状を学びます。

◎日程

事前学習		
7/24 (金)	午後 5:00 ～7:00	神戸大学（国際文化学部内）にて 課題書籍：生田武志さん『ルポ最底辺』ちくま新書（事前に読んでおいてください）
フィールドワーク		
8/20 (木)	午後 7:30 午後 9:00 午後 10:30 午前 0:00	JR 新今宮駅集合。そのまま釜ヶ崎「旅路の里」投宿 オリエンテーション「夜まわりにあたって」（1 時間） 講師：木曜夜まわりの会 小柳伸顕さん 協力団体：木曜夜まわりの会 夜まわり開始（3～5 人のグループに分かれて） 実習内容：野宿者 夜まわり終了（簡単な振り返り）
8/21 (金)	午前 5:00 午前 11:00 午後 7:30	寄せ場見学 見学場所：あいりん総合センター 釜ヶ崎フィールドワーク レクチャーも交えつつ、まち歩き。 野宿者問題に関するドキュメンタリー映画の視聴 振り返り（1 時間） 会場：旅路の里
8/22 (土)	午前 10:00 午後 7:30	西成と釜ヶ崎についての学習 西成公園テント村見学 実習内容：行政代執行にあった当事者にお話を伺う。 実習場所：西成公園、および鶴見橋商店街 振り返り座談（1 時間） 会場：旅路の里
8/23 (日)	午前 10:00 午後 1:00 ～午後 5:00	大阪人権博物館「リバティ大阪」見学 ワークショップ 実習内容：社会運動における表現手法としてパペット制作を学ぶ 実習場所：大阪城公園 協力団体：大阪城公園よろず相談所

振り返り学習

8/27 (木)	午後 2:30 ～午後 5:00	神戸大学 (国際文化学部内) にて 講師: 原口 剛さん (日本学術振興会特別研究員)
----------	---------------------	--

宿泊場所: イエズス会社会司牧センター 旅路の里 (大阪市西成区菟之茶屋 2-8-9 / TEL 06-6641-7183)

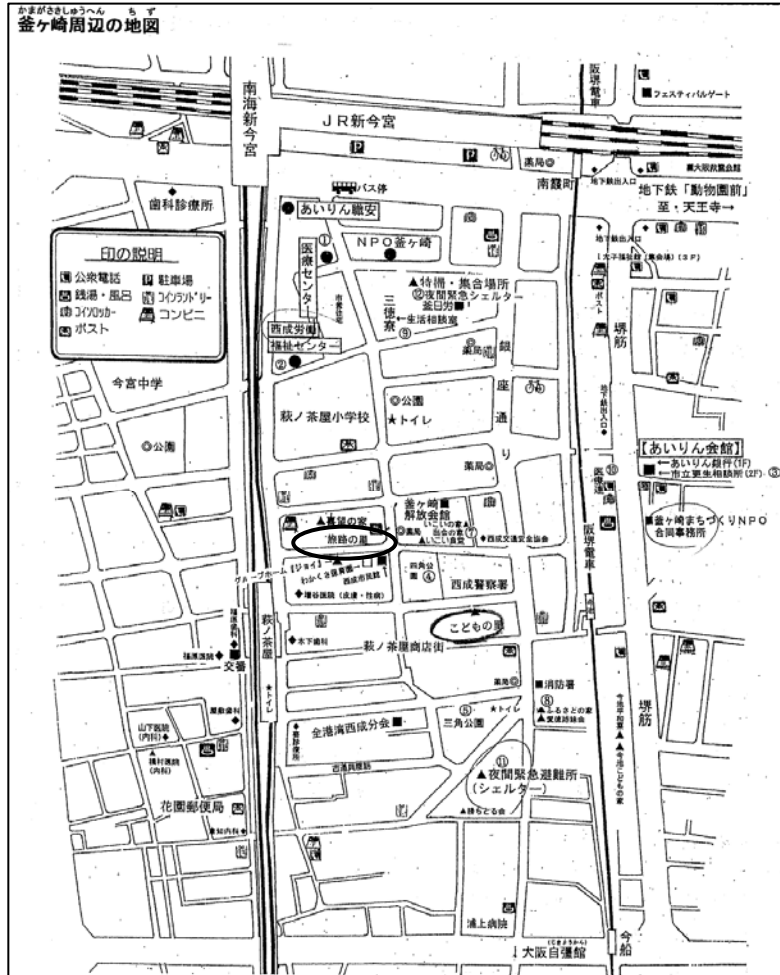
◎問題の概要

全国の都道府県中で、大阪府は最も数多くの野宿者がいるとされています。野宿者問題は、バブル崩壊期の 1990 年代初頭に、まず全国の寄せ場 (大阪の釜ヶ崎が日本最大の寄せ場である) において、日雇い労働者が仕事にあぶれて路上生活を余儀なくされるといって、大きな社会問題になりました。男性で 50 歳代、日雇い労働をしていたが、仕事にあぶれ、野宿を余儀なくされている、というのが、そうした野宿者の典型です。野宿する場所も、寄せ場の周辺から、都市の中の公園や河川敷・高架下に移り、テント村が形成されてきました。

さらにその後、不景気が続く中で、野宿者の背景が多様化します。日雇い労働者以外の、リストラされた会社員や、住み込みで仕事をしてきた人々などが野宿を余儀なくされるようになります。また女性野宿者も増えてきます。

こうして野宿者問題が拡大するのに対応して、2002 年 8 月には「ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法 (自立支援法)」が成立・施行されました (10 年間の時限立法)。この法律では「ホームレス」を「都市公園、河川、道路、駅舎その他の施設を故なく起居の場所とし、日常生活を営んでいる者」と定義しています。この法律の定義に見られるように、公共施設で寝ている野宿者を何とかしようという意図が強く、福祉政策・住宅政策などにまで踏み込んだ立法ではない点に問題があります。

また、都市部では実際に公園などからの野宿者の排除が進められました。もっとも大がかりには、行政代執行によるテント村の強制排除があり、大阪市では 2006 年のうつぼ公園・大阪城公園で、また 2007 年には長居公園で行政代執行が行われました。より日常的には、公園管理者による執拗な説得や、フェンスや花壇の設置、ベンチへの「ホームレス返し」の設置などによる排除が進行しています。



テーマ3「神戸の定住外国人の歴史と現状」

◎ねらい

近代港湾都市として発展した神戸は、居留地を拠点とする欧米人と南京町を形成した中国人をはじめとして、多くの外国人が暮らす町として発展しました。オールドカマーと呼ばれる在日コリアンや中国人だけでなく、近年ではニューカマーと呼ばれるベトナム人、日系ブラジル人なども増加しています。このテーマでは、日本社会に定住する外国人の歴史的な背景と現状を学ぶことを通じて、多様性を認め合う社会をどのように構築していくことができるのかを考えます。

◎実習について

このテーマの実習は、顔合わせが1回、在日外国人の子どもたちの生きづらさをテーマとした寸劇の見学が1回、在日コリアンについて学ぶレクチャーとフィールドワークが1回、在日ベトナム人について学ぶレクチャー&神戸の移住センター見学&北野町のフィールドワークが1回として、各日程で実施されます。

◎日程

事前学習		
7/31 (金)	午後 5:00～ 午後 6:00	<ul style="list-style-type: none"> ■午後 5:00 に神戸大学内に集合。 ■神戸大学 (国際文化学部内の教室もしくは学生ボランティア支援室) にて実施。事前に目を通しておいてもらう資料の配付、実習グループ分け、参加する上での諸注意等を行う。
現場実習		
8/24 (月)	午後 1:00～ 午後 6:00	<ul style="list-style-type: none"> ■各日程、開始時間の 30 分前に JR 新長田駅改札前に集合。 ■JR 新長田駅前の NPO 法人「定住外国人支援センター」にて、日本に定住する外国人の子どもたちと交流及び学習支援ボランティアに参加する。 ■5名で1グループとして、3日間のうち1日を選択する。 <p>※主に小学生</p>
8/25 (火)	午後 3:30～ 午後 8:30	<ul style="list-style-type: none"> ■小学生～高校生
8/27 (木)	午後 3:30～ 午後 8:30	<ul style="list-style-type: none"> ■小学生～高校生
寸劇鑑賞 (※自由参加)		
8/28 (金)	午前 10:30～ 午後 0:30	<ul style="list-style-type: none"> ■午前 10:30JR 灘駅南口改札前に集合 ■神戸市中央区の HAT 神戸にある兵庫県国際交流協会 (国際健康開発センタービル内) において上演される、定住外国人の子どもたちをテーマとした寸劇を鑑賞する。希望者は午後の講演会にも参加する。
在日コリアンについてのレクチャー&長田区フィールドワーク		
8/31 (月)	午前 10:00～ 午後 17:00	<ul style="list-style-type: none"> ■午前 10:00JR 新長田駅改札前に集合 ■在日コリアンの金信鏞 (キムシニョン) 氏を講師に迎え、在日コリアンの歴史や現状についてのレクチャー及び長田区のフィールドワークを行う。
移住センター見学&北野町フィールドワーク&在日ベトナム人についてのレクチャー&振り返り		
9/2 (水)	午前 10:00 午前:10:15～ 午前 11:00～ 午後 2:00～	<ul style="list-style-type: none"> ■午前 10:00 JR 元町駅東口改札前集合 ■「海外移住と文化の交流センター (旧神戸移住センター)」見学 ■北野地区フィールドワーク (ムスリムモスク、ジャイナ教寺院、ユダヤ教会、ラインの館、ロシア正教会、グローサリーショップ等) ■全員で JR 鷹取駅まで移動。カトリックたかとり教会内にある「NGO ベトナム in

	午後 17:00	KOBE」代表ハ・ティ・タン・ガ氏のレクチャー（※お茶代 100 円程度集めます。） ■ 振り返りの会（たかとりコミュニティセンター内を予定）
9/18（金）在日外国人分野実習レポート（1500 字）提出締め切り（提出先：svs@port.kobe-u.ac.jp）		

◎問題の概要

神戸は幕末から港町として開かれ、南京町で知られる中国人の商人や、北の異人館で知られる欧米系の外国人などが暮らしてきた。そうした中国人や欧米系の人以外にも現在では約 4 万 4 千人、98 カ国の外国人が神戸で暮らしている。

最近ではベトナム、フィリピン、ペルー、ブラジルからの**定住者**が増えている。こうした 1980 年代以降から増えてきた外国人を**ニューカマー**と呼ぶ。渡日の目的は様々で一口にくくれるものではないが、特に多いのは労働のための就航だ。特にブラジルに関しては 1980 年代後半から 1990 年代前半にかけてインフレ 2000%という不況で失業問題を抱えていた。一方の日本は好景気に沸き、若者が 3K（きつい、きたない、きけん）な労働を避けるようになり、こうした職が人手不足となった。この人手不足を補うために、日本政府が目をつけたのはかつて国策として日本全国から神戸に集まり、神戸からブラジルに移住した日本人の子孫である**日系ブラジル人**だった。こうして、日本が働き手を求める状況とブラジルに職がない状況が重なり、**入管法**の改正もあって一気に渡日する日系ブラジル人が増えた。また、その他の地域に関しても母国にいる家族への送金を期待される場合や、帰国を前提とせず日本で仕事をして生活していく場合もある。

現在の日本の不況の中で、製造業の下支え的な労働に従事している場合の多い外国人労働者は厳しい状況に置かれている。また、労働の中だけでなく、医療、教育、結婚、福祉さまざまな分野で経済的または精神的に苦勞を強いられる場面が多い。**言葉の壁、法の壁、日本人側との心の溝**がそこにはある。

こうした状況は、国際的な圧力やもろもろの事情があり、日本側が入国の門戸だけ開いたものの後から起る様々な問題に対応が追い付かないために起こっている。これらの事に取り組もうとする時、そもそも戦後間もないころの日本の外国人に対する対応にまで遡ることが必要だ。

戦前・戦後に日本に来た外国人を**オールドカマー**と呼ぶ。台湾や朝鮮など、旧植民地出身者がほとんどだ。朝鮮にルーツをもつ人を**在日コリアン**という。神戸でも下町に多く暮らしている。戦時下の蔑む気持ちや報復を恐れる気持ちが世代を超えても残り、差別や偏見はなくなるならない。日本人の意識としては「なぜ国に帰らないのか」「勝手に住んでいるのに好き放題して」というものがある。ここにはなぜ朝鮮人が日本に来たのか来ざるを得なかったのかという**歴史認識**が欠けていると思われる。

阪神・淡路大震災では、隣人とのつながりの大事さを痛感したという。そして人々は避難所での生活の中で人々は隣人が多様化していることに気づいた。外国人もその中にいた。こうして**外国人市民**の発想が生まれた。

募集要項配布・参加申込書提出先

◎学生ボランティア支援室（平日朝 10 時～夕方 18 時まで）

TEL : 078-803-6256 FAX : 078-803-6028

E-mail : svsc@port.kobe-u.ac.jp URL <http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/>

◎学生センター 学生相談掛（藤原）

TEL : 078-803-5227

※いずれの窓口でも申込〆切は、7月31日（水）17:00 まで。

【参考】鶴甲第1キャンパス（国際文化学部キャンパス）地図



◎メールによる提出

学生ボランティア支援室の Web サイト (<http://www.org.kobe-u.ac.jp/svsc/>) から「参加申込書」を Word ファイルでダウンロードし、それに記入の上、メール (svsc@port.kobe-u.ac.jp) で送信 (〆切は窓口提出と同じ)。